

歌・ノレノ래 165

『大田(テジョン)ブルース』

大和泰彦

私がまだ韓国へ関心を持つようになる前のことである。今は亡き青江三奈のCDに収録されていた「大田ブルース」を聴いて子供ながらにゾクゾクと感動した。モンポやらテジョンやら聞き慣れない地名が出てきたので「一体どこの国の歌だろう?」と疑問に思ったのだが、今となつては良い思い出だ。



「大田ブルース (대전 부르스)」

作詞：崔到守 作曲：金富海 歌：安貞愛

さよなら私は行く 別れの言葉もなく
去り行く夜行列車 大田発 0時50分
世は眠り着き 静かな今宵
私だけが振られ 泣くのよ
ああ 引き止めても振り切る 木浦行き鈍行列車



「大田ブルース」は日本で最もよく知られた韓国歌謡の1つであろう。青江三奈をはじめ李成愛、内田あかり、水野浩二等が日本語でレコードを発売した。

歌の舞台となった大田広域市は古くからハンバッ(한밭、大きな田畠)と呼ばれた農村地帯であった。日本の植民地になると大田と名付けられ、鉄道の開通とともに町も発展し忠清南道の中心地となった。大田駅はソウルと釜山を結ぶ京釜線のちょうど中間点にあり、また木浦まで走る湖南線の起点という鉄道交通の要所である。



大田は日帝時代から今まで行き来する人々の様々な感情が入り交わる町として存在してきたのである。「大田ブルース」はそんな大田駅で繰り広

げられた男女の悲しい別れの場面が見事に描かれている。この曲を作詞した崔到守は元々新世紀レコードの社員であり、ある日地方へ出張した際に大田駅で一夜を過ごす中、汽笛とともに湖南線の終着駅木浦へと向かう夜行の鈍行列車に乗って行く人々の笑顔や涙の表情を観察しながら歌詞をイメージしたという。作曲者は歌謡界屈指のヒットメーカー金富海(1918~1988)である。特に「大田発 0時50分」のフレーズは有名になり、同名の映画も制作された。不思議なことに同じ頃、日本ではフランク

永井が「羽田発 7時50分」をヒットさせている。



歌手の安貞愛(アン・ジョンエ)

は1936年に慶尚南道河東郡で生まれた。歌手になりたい一心から家出同然でソウルへと上京、1959年

に「大田ブルース」が全国的に大ヒットしてスター歌手の仲間



入りを果たした。続けて「夜雨のブルース」「純情のブルース」「黄昏のブルース」「連絡船ブルース」「トラジブルース」と曲名にブルースが付く曲でヒットを連発、鼻に

かかった歌声とともに「ブルースの女王」と呼ばれた。

1970年代以降は安貞愛の人気も急落したが、1980年にチョ・ヨンピルが自身のアルバム「第1集」の中で「大田ブルース」を新たなアレンジでレコーディングし再び注目された。

安貞愛は現在78歳で、声の張りもなくなったが現役のトロット歌手として活躍している。テレビ出演こそ少ないものの、地方のイベントやファンの集いでは「大田ブルース」を披露し、さらにチョ・ヨンピルに対抗して(?)「釜山港へ帰れ」もほぼ必ず歌うという。



最近の安貞愛



1999年、大田駅前の一隅に「大田ブルース」の歌碑が建てられ市民の憩いの場となっている。歌碑には歌手名が刻まれていないが、創唱者の安貞愛が「再ヒットさせたチョ・ヨンピルの名前も刻むべきではないか」と提案し結局どちらの名も記されなかったという。なお昨年、私が大田へ行った時には歌碑の前で仏教団体が主催した慈善歌謡ショーが行われていた。



余談だが、最近の大田のご当地ソングには若手トロット歌手ミンジが歌う「大田は私の愛」があり、「大田ブルース」とは対照的に大田の街を明るく歌い飛ばしている。

大田ブルース
대전 블루스

최치수 작사
김부해 작곡
안정애 노래

블루스

Dm 3 A7 3 Dm 3 A7 3 Dm > 3 >

Dm Bb A7

Dm A7 Dm Dm

잘기 — 있거라 나는간다 —
— 적소리 슬피우는 —

Gm Dm

이별의말도 — 도 — 없이 —
눈물의포트 — 랫트 — 흠 —

떠나 — 가 — 는 —
무정 — 하 — 계 —

Dm A7 Dm A7 Dm 3 3 A7 3

— 새벽열차 — 대전발영 시오 3 —
— 떠나가는 — 대전발영 시오 — 3 —
— 십 — 분 —

A7 Gm A7 Dm

세상은잠이들어자 고요한이밤 —
영원히변치말자 맹세했건만 —

나만이소리치며는
눈물로헤어지

Dm A7 Bb Dm A7

울줄이야 아 — 아 —
쓰느린심정 아 — 아 —

불잡아비도에 뿌리치는
보풀에 첫어가는

Dm A7 Dm

D.C.

목포행완행 열열 차

Dm Gm A7 Dm >>>

—